

共創の取組事例

◆「共創による地域づくりシンポジウム」を開催しました(R6.10.5 岩見沢市)

- 本シンポジウムでは、国の「第9期北海道総合開発計画」（令和6年3月閣議決定）及び道の「北海道総合計画」（令和6年7月決定）の推進に向けて、様々な分野で活躍されている方々に「次世代に向けた地域づくり・人づくり」をテーマに議論いただきました。
- 司会進行は、「次世代」の代表である北海道岩見沢緑陵高校放送局のお二人。和やかなムードで開会しました。
- 第9期計画の審議に参画された藤沢 久美氏による基調講演は、約190名の会場参加者を魅了。住民参加によるまちづくりを進めるためにはデータを活用した「見える化」が非常に重要性であること、地域の素晴らしさを自らの感動とともに語ることが共感を生む力になること等、大変印象的なお話でした。
- パネルディスカッションは、山本 理人氏によるコーディネートのもと、「次世代」や「内と外」をキーワードに展開。「共創の構造は、縦横の展開に加え、これらを掛け合わせて立体化することが必要。さまざまな世代が語り合い、話し合う場を創り、それを融合させることで地域課題解決の方策が見えてくるのでは。」との山本氏の締めくくりのメッセージは、わたしたちの進むべき道筋を示すものとなりました。
- シンポジウム後は、参加者による交流があり、興奮冷めやらぬ熱気の中、さっそく「共創」がキックオフされた、そんな1日になりました。

（文責：共創による地域づくりシンポジウム事務局）

★司会進行：北海道岩見沢緑陵高校放送局

★基調講演：藤沢久美 氏
株式会社国際社会経済研究所理事長
「ヒト・モノ・カネが循環する
参加型まちづくりのポイント」

★パネルディスカッション：
「次世代に向けた地域づくり人づくり
～内と外の化学反応」

【コーディネーター】山本 理人 氏
国立大学法人北海道教育大学岩見沢校キャンパス長

【パネリスト】
・岸本 友宏 氏
一般社団法人空知建設業協会理事
広報企画・入職促進委員長
・北口 博美 氏
NPO法人炭鉱の記憶推進事業団事務局長
・藤沢 久美 氏
株式会社国際社会経済研究所理事長
・宮川 愛由 氏
認定NPO法人ほっかいどう学推進フォーラム
事務局長・特別研究員



大盛況の会場



基調講演（藤沢久美 氏）



司会の牧野くんと菅原さん

共創の取組事例

◆ こどもの運動プログラムを通じた教育機関と「道の駅」の連携

- 多様な主体との連携・協働による地域の課題解決や価値向上に向けた「共創」の取組の一環として、教育機関との協働により、地域の子ども達に運動に親しんでもらうことを目的とした運動プログラム「N(エヌ)チャレンジ」を、道の駅では初の試みとして「ハウスヤルビ奈井江(9月)」及び「三笠(11月)」でそれぞれ実施しました。

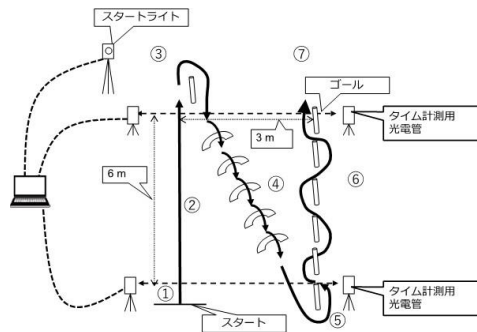
「Nチャレンジ」は、あらゆるスポーツに共通して必要な「すばやい身のこなし」の能力を測定する運動テストで、子どもが楽しんで取り組めるアジリティ（敏捷性）テストとして北海道教育大学岩見沢校の教員が開発されたプログラムです。

今回のイベントは、集客力と地域コミュニティ機能を持つ「道の駅」で実施することで、「Nチャレンジ」の普及促進、道の駅を拠点として地域の子ども達や住民との交流促進を図ることを目的として実施しました。



教育機関

Nチャレンジプログラム (道教育大岩見沢校が開発)



子どもの直線のスピードや方向変換を中心としたアジリティ能力を楽しく測定する運動プログラム
約6～10m四方のスペースがあれば実施可能

提供:北海道教育大学岩見沢校

道の駅



「道の駅」でのプログラム実施の様子



札幌開発建設部

- ・実施箇所の候補選定
- ・道の駅管理者との調整
- ・効果検証のためのアンケートなど



あわせて実施した体力測定(左)と 3×3バスケットボール体験(右)



- 当日は、道の駅に立ち寄った家族連れや地域の子ども達が多数参加しました。
- 参加者からは、「学校でも実施してほしい」、「ボール投げ、走り方教室なども実施してほしい」といった声が寄せられました。

共創の取組事例

◆ ポロクルの特別仕様車『9期計画号』2年目スタート

- 『9期計画号』が今年も札幌のまちなかを走ります。
- 昨年8月、札幌開発建設部と認定NPO法人ポロクルは「第9期北海道総合開発計画」のスタート記念として、札幌のシェアサイクル「ポロクル」の1台だけの特別仕様車『9期計画号』を展開しました。『9期計画号』は、全620台の赤い車体の内、1台だけのエメラルドグリーンのカラーの車体です。



※認定NPO法人ポロクルとの連携

昨今、環境負荷の低減、渋滞対策、健康増進の観点から自転車の活用が推進されています。札幌開発建設部では、札幌都心部の自転車と自動車の共存可能な車道走行環境の確保を目指し、官民協働による自転車対策の推進を図ってきました。また、近年は災害発生時の防災の観点からも協力関係を築いているなど、認定NPO法人ポロクルは、自転車の活用推進に向けて一緒に取組を進めてきたパートナーです。このような背景のもと、お互いの趣旨が相まって今回の取組に至りました。

4月6日(日)より『ポロクル』2025年度営業開始！

自転車は約620台、ポートは約60カ所でスタート

札幌都心部で展開しているシェアサイクル『ポロクル』は、新車両への入替や増車により自転車約620台、昨シーズンと同規模のポート約60カ所で、4月6日(日)10時に営業を開始します！

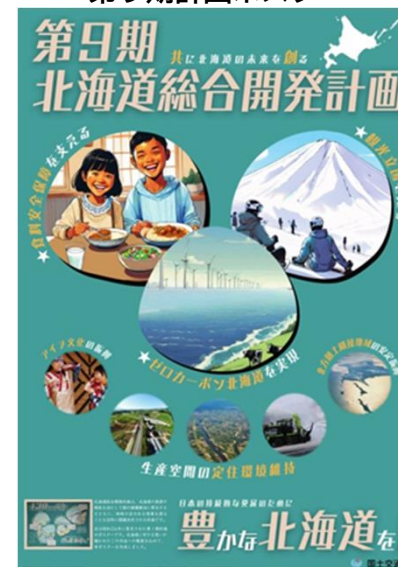
営業期間：2025年4月6日(日)～11月15日(土)

今後ポートは、賑わいを増している創成川イーストエリア等への設置を予定しています。今シーズンも、市民や旅行者に楽しく便利で安全に札幌の街を周遊していただけるサービスを提供してまいります。



※認定NPO法人ポロクル プレスリリースより

第9期計画ポスター



第1期計画ポスター（昭和26年）



右は昭和26年に策定された第1期計画のポスターです。北海道に対する想いが描かれたこの作品への敬愛を込めて第9期計画ポスター（左）を作成しています。

共創の取組事例

◆ かわとまち(地域)が一体となって交流拠点を創りました

- 砂川市に位置する砂川オアシスパーク(砂川遊水地)は、かつては大雨が降るたびに氾濫を繰り返してきた石狩川の洪水を防ぐため、石狩川のショートカット工事によって生まれた旧川跡を活用して完成した河川管理施設です。
- 地域ブランドの育成・強化や広域的観光事業を推進している砂川市では、砂川遊水地を拠点とした「砂川地区」を「かわまちづくり制度」に登録し、多目的に利用できる空間として整備するとともに、都市・地域再生等利用区域指定による地域・観光情報の発信拠点への整備に取り組んでいます。

かわまちづくりで地域経済を活性化



➤ 砂川地区かわまちづくり・完成式



令和6年7月27日(土)、砂川市、オアシスパークからゆめまちづくり協議会、札幌開発建設部が連携し整備を進めていた「砂川地区かわまちづくり」が無事完成し、砂川市長や札幌開発建設部長らの出席のもと完成式が開催されました。

※かわまちづくり

国土交通省では、水辺を活かして地域の賑わい創出を目指す取組「かわまちづくり」を推進しています。「かわまちづくり」とは、地域が持つ「資源」や地域の創意に富んだ「知恵」を活かし、地域活性化や観光振興などを目的に、市町村や民間事業者、地域住民等と河川管理者が各々の取組を連携することにより、「河川空間」と「まち空間」が融合した良好な空間を形成し、河川空間を活かして地域の賑わい創出を目指す取組です。

共創の取組事例

◆ 地域をつなぐインフラ(橋)づくりにこどもたちが参加

- 道央圏連絡道路（国道337号）は、千歳市を起点として小樽市に至る高規格道路であり、新千歳空港、苫小牧港、石狩湾新港及び小樽港を結び、札幌圏における人流・物流の連携を図る重要な役割を果たすものです。
- そのうち、令和6年度の開通に向けて札幌開発建設部が工事を進めている中樹林道路（江別市、南幌町）において、地元・南幌小学校の児童5名とともに、新たに架かる橋梁（幌向運河橋、南7線橋）に橋名板を取り付けました。
- 橋名板は、こどもたちが筆で書いた河川名や橋の名前をもとに製作。取付前には、橋名板の裏面に思い思いのメッセージやイラストを記しました。
- 地域を支えるインフラ整備にこどもの頃から関わることで、地域への理解や愛着が深まっていくことを期待しています。



橋名板裏面にメッセージやイラストを書きました
(取付前しか見ることができません)

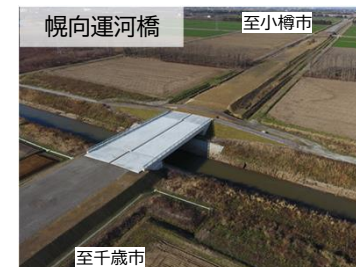


ボルトナットを締めて取付完了！



「幌向運河橋」の上で
記念撮影

【橋梁の概要】



橋 長:25m
橋梁形式:PC単純中空床版橋
逆T式橋台



橋 長:24m
橋梁形式:PC単純中空床版橋
逆T式橋台

共創の取組事例

◆ Bリーグ会場でパネル展、様々な世代との連携に向けて

- 3月26日、北海道開発局とレバンガ北海道の包括連携協定締結を記念してイベントを開催しました。
- 連携イベント第1弾は、Bリーグ公式戦レバンガ北海道 vs 群馬クレインサンダーズ戦の会場（北海きたえーる）にて、北海道開発局の事業を紹介するパネル展を実施。この広報活動を通じて北海道開発局公式SNSへの関心度の変化等を検証しました。
- さらに、試合開始前には、多くの観客が注目する中、コートにて協定締結を報告し、レバンガ北海道との今後の連携を宣言しました。



坂場北海道開発局長と折茂レバンガ北海道社長

SNSをフォローしてくれた方を対象に連携協定締結記念のコラボステッカーを配布。約2時間で札幌開発建設部のインスタフォロワー数はなんと約2倍に！



◆ シーニックバイウェイ北海道



シーニックバイウェイ北海道

シーニックバイウェイって？

シーニックバイウェイ (Scenic Byway) とは、景観・シーン (Scene) の形容詞シーニック (Scenic) と、わき道・より道を意味するバイウェイ (Byway) を組み合わせた言葉。地域に暮らす人が主体となり、企業や行政と手をつなぎ、美しい景観づくり、活力ある地域づくり、魅力ある観光空間づくりを目指す取り組みです。平成17年よりスタート、現在14の指定ルート、3つの候補ルートがあり、約500団体が活動をしています。



「空知シーニックバイウェイ-体感未来道」

～五感で「空ヲ知ル」～

空知シーニックバイウェイは、南北を貫く日本一の直線道路“国道12号”を軸に、石狩川流域に美しい田園風景が広がる内陸地帯です。サイクルツーリズム、川下り、空を旅するグライダー、歴史を学ぶ炭鉱遺産ガイドツアーのほか、農家レストランやカフェなどなど「五感で空知を知る」魅力的な体験が楽しめます。

地域の歴史・営みを感じる空知ingな景観づくり

地域を知ると見える景色が変わります。

歴史・成り立ちを大切に、景観資源を発掘し、伝えていきます。

ルーツを大切に、未来に繋ぐ空知ingな地域づくり

ひとつひとつの町に物語があります。

ルーツを知り、物語を紡ぐ 空知ノ物語の活動をはじめます。

暮らしに触れる、風土を学ぶ空知ingな観光空間づくり

地元の子ども、観光客も、空知を“学び”のフィールドに。

“暮らし”と“学び”のツーリズム。空知ラーニングツーリズムを展開します。



ルートの活動状況

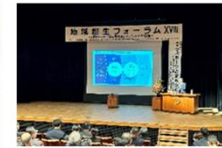
『そら★スタ』スタンプラリー



植栽・清掃・除草活動



フォーラム



空知シーニックバイウェイキャラバン

自治体と連携し、南・中・北空知の各エリアの景観・地域資源調査と意見交換を開始

【R5年度 実施箇所】

- 南空知：由仁町・栗山町・長沼町・南幌町
- 北空知：秩父別町・妹背牛町
- 中空知：国道12号 滝川市他

サイクルツーリズム



シーニックデッキ・カフェ&情報拠点

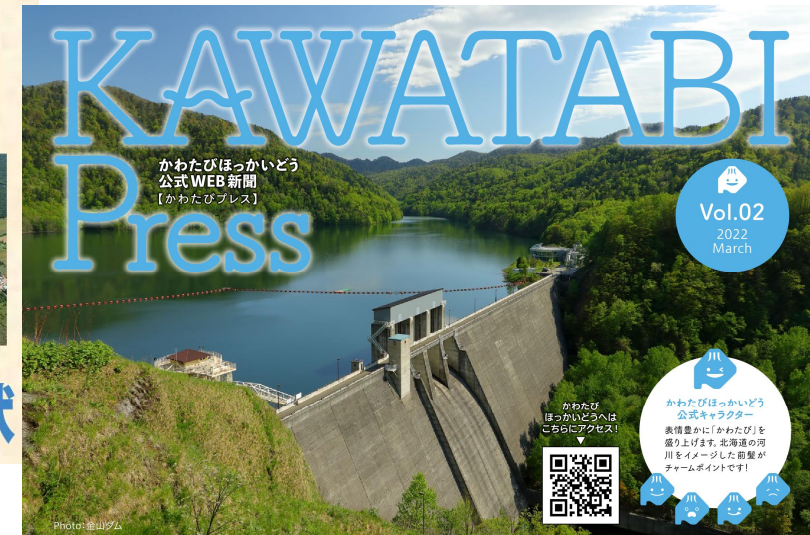


R5より

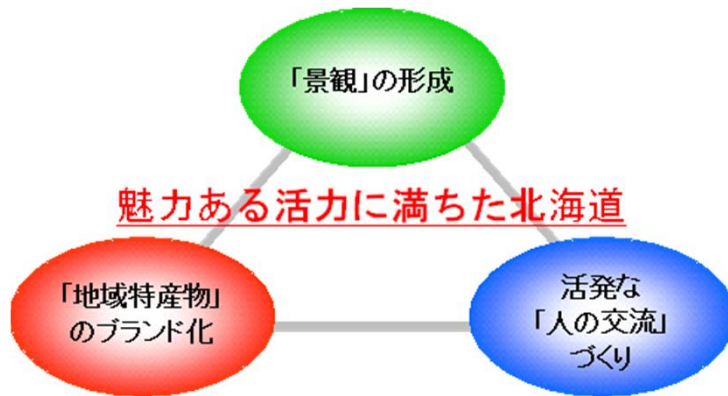
◆ かわたびほっかいどう



「かわたびほっかいどう」とは北海道の河川に関わる活動を通じて、地域の活性化や振興を図り、北海道の魅力を最大限に引き出すことを目的として、その目的の達成に向けた活動です。



◆「わが村は美しく - 北海道」運動



- 北海道内各地での住民主体の地域活性化活動を支援するとともに、貴重な地域資源情報として事業の推進に役立て、農山漁村の発展に寄与することを目的に運動の一環として、コンクールを開催しています。
- コンクールは、道内各地で地域の魅力と活力を高めようとする地域住民の努力と行動に光をあて、全国に伝えるとともに、活動を支援し波及させていくことによって、農山漁村の新たな発展を目指します。



そらち南さつまいもクラブ

【由仁町・栗山町】

若手農業者たちが「由栗いも」で全国的産地を目指す

「由栗いも」と両町の全国的な認知度向上を目指して、生産量と販路拡大による地域活性化に取り組んでいます。



元気村・夢の農村塾

【深川市、妹背牛町、沼田町、北竜町、秩父別町】

主に修学旅行で来道する道外の高校生を対象に20年以上にわたり農業体験の受入れを行っており、1泊2日でのファームステイのほか、2泊3日や日帰りでの受入れも行っています。